

## ASD 当事者を特別支援学校外部専門員として活用した経験と効果

企画者	綿貫 愛子	(NPO 法人リトルプロフェッサーズ)
司会者	田中 雅子	(東京都立中野特別支援学校)
話題提供者	片岡 聡	(NPO 法人リトルプロフェッサーズ)
	綿貫 愛子	(NPO 法人リトルプロフェッサーズ)
	星井 純子	(大田区教育委員会発達支援アドバイザー)
指定討論者	奥住 秀之	(東京学芸大学)
	黒田 美保	(広島修道大学)

KEY WORDS: 特別支援学校, 外部専門員, 自閉症

### 【企画趣旨】

特別支援学校外部専門員とは、東京都立知的障害特別支援学校の教育内容を充実させ、教員の専門性を向上するために配置される専門家のことである。各校は、在籍する児童生徒の障害の状態や発達段階、教育ニーズに応じて、さまざまな分野の専門家を活用することができるが、一般的に外部専門員は、作業療法士や言語聴覚士、心理の専門家等の医療従事者や、職業教育や作業学習に関わる専門家であることが多い。

平成 28 年度、東京都立中野特別支援学校では、自閉スペクトラム症（以下、ASD）の成人当事者 2 名が外部専門員として委嘱された。発達障害当事者が自分の体験を振り返り、障害および認知特性について考察するような啓発活動に留まるのではなく、実際に学校現場で新しい支援の視点や適切な支援方法を提供するという斬新な試みである。当事者が特別支援教育の現場に一専門家として導入される取り組みは、全国的にみてもきわめて珍しいと考えられる。

本シンポジウムでは、同校における 1 年間の実践報告をそれぞれの立場から話題提供し、ASD 当事者が学校現場で児童生徒や教員に対し、どのように役立つことができるのか、また、今後の方向性と課題について検討したい。なお、話題提供者の氏名の公表には本人の同意を得た。

### 【話題提供者の要旨】

#### 1. ASD 当事者からの報告 1 (片岡聡)

演者は、ASD 当事者という立場で東京都立中野特別支援学校の外部専門員として、ASD 児者の生活および学習上の問題を解決するアイデアの提供を行っている。教育や心理の資格をもたない一当事者に、教員の方々への助言、ひいては ASD のある児童生徒の利益に資する活動ができるか不安であったが、以下の 3 点を心がけた。

◆教員にわかりやすい記録形式：ASD 者からみた観察対象児の行動上の注目点を写真、映像等でわかりやすく示す。これは教育や心理の専門性をもたない当事者として教員の方々に有益な記録を残すためにも必要なことと考えた。

◆「環境保障」の観点の記述：演者は感覚の問題があることが多い ASD 児者に辛い最低限の音環境および光環境を用意することは重要な合理的配慮だと考えており、これを「環境保障」と呼んでいる。自身が教室や体育館、パニックスペースなどでどの程度、感覚由来の困難を感じるかを「センサー」として記述するよう留意した。

◆自己の見聞きする事例、過去の専門分野を活かす：東京都自閉症協会など、所属する ASD 団体などでの問題解決事例で参考になることがあれば経験を提供する。またかつての専門である臨床薬学の知見で有益なものがあれば共有する。

1 年を経過してみて、当事者の視点が児童の問題解決に向けて有益な示唆となったと思われる事例もあり、一定の要件を満たす ASD 者が特別支援学校外部専門員として活動する

ことは有益であると感じられた。

#### 2. ASD 当事者からの報告 2 (綿貫愛子)

東京都立中野特別支援学校に在籍する、ASD のある児童生徒の行動について、自分の内的な感覚や経験を参考にしながら説明し、教員への助言を行ってきた。平成 28 年度は、小学部を中心に授業観察し、ときに児童と肩を並べ、授業を体験することにより、教員の教示や教材、教室環境について良いところ、改善できるところを具体的に伝えた。

例えば、教員の教示については、効果的で不安を感じない教員の位置や児童生徒との距離感、話し方、身振りなどをその場に合わせた提案した。教材については、自分の視覚認知を参考に、見やすい書式を提供したり、文章の意味理解の苦手さを活かして、分かりやすい記述に加筆訂正したりした。教室環境については、実際にその環境に身を置くことで、教室内の何が刺激的に感じられ、また、何に注意を転導させられやすいかを見出し、実現可能な解決策や改善策を伝えた。

同校では、ASD 当事者が働きやすいように、スケジュール表の事前提示や感覚運動面に配慮したグッズの提供などがあり、非常に助けられている。

外部専門員を務めるなかで、児童生徒から教えられることは多い。彼らのコミュニケーションの豊かさや社会性の芽生えについても話題提供を行いたいと考えている。

#### 3. 教員からの報告 (星井純子)

平成 28 年度より前勤務校である東京都立中野特別支援学校において、東京都の知的障害特別支援学校外部専門員制度活用の取り組みを開始した。教員の専門性の向上や、指導の充実を図るための制度で、年間 750 時間を外部から専門家を招き、本校での活用を図るもので、既に導入を始めている他校の視察や資料の収集を図ることから準備し、校内の実態とニーズ、専門員の職種、人選など多岐に渡る準備を特別支援教育コーディネーターが中心になり行い、検討の結果、スタート時点から心理士、言語聴覚士、理学療法士、作業種や教科指導の専門家など、計 20 名の幅広い経験豊かな専門職に協力を得ることができた。

また、本校が目指すもう一方の柱は、社会の中では少数派の特性がある ASD の当事者による視点から、助言を受け、これまでの指導のあり方を見直すことであった。実際に当事者の方による助言は、現場経験の長い教員にも非常に新鮮で有効な内容が多かった。開始前は、やや心配されていた専門員来校日程の連絡調整、当日の予定の確認や活動の円滑な進め方、フィードバックの受け方などについては、特に支障なく行うことができたと考えている。

今後は、さらに双方の具体的な意見交換を活発にし、指導や環境調整の改善に継続性をもって取り組んでいきたい。

(WATANUKI Aiko, TANAKA Masako, KATAOKA Satoshi, HOSHII Junko, OKUZUMI Hideyuki, KURODA Miho)